

こたえ くまと二人の旅人

基礎③

くまと二人の旅人

(イソップの話)

二人の旅人が、いっしょに山道を歩いていました。

そこへ、大きなくまがあらわれました。一人は、さっさと木にのぼってかくれてしまいました。もう一人は、にげおかれて、その場にたおれ、死んだふりをしました。

くまは、たおれている男に近づき、顔のあたりのにおいをかぎました。男は、息を止めてじっとしていました。やがて、くまは森へ帰っていきました。

木から下りてきた男が、たずねました。

「くまは、君の耳元で何と言ったんだい。」

「『こまったときに一人でにげるような者とは、旅をしないほうがいい。』と言ったよ。」

木にのぼった男は、顔を赤くして、何も言えませんでした。

1 一人目の旅人は、くまを見てどこにかくれましたか。

木の上

2 もう一人の旅人は、どんなふりをしましたか。

死んだふり

3 たおれていた男が、息を止めてじっとしていたのはどうしてですか。

ア ねむかったから。

ウ イ 死んだと思わせるため。
くまとなかよくなりたかったから。

4 さいごの言葉には、たおれていた男のどんな気持ちがこめられていますか。

ア 木にのぼった男への、がっかりした気持ち

イ くまへの、ありがたい気持ち

ウ 旅が楽しかった気持ち

おうちの方へ

- 本当にくまが言ったのではなく、男が自分の気持ちをくまの言葉にして伝えている、と読めます。